

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2274100524 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人寿康会 | | |
| 事業所名 | グループホーム高松 | | |
| 所在地 | 静岡県駿河区高松2625 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年5月14日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年10月11日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kanistrue&JigyosyoCd=2274100524-00&PrefCd=22&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室 | | |
| 所在地 | 静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A | | |
| 訪問調査日 | 令和4年7月19日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

以前より増して自立度が下がり介護負担は増えているが、職員も業務にも慣れ経験も増えてきたおかげで対応出来ている。9年入居していた利用者様が段々と機能が落ち食事対応も日々変わる中入院させる事もなくホームで見送る事が出来た。変わらず出掛けることが出来ないが食事をほぼ完全手作りで提供し、残菜率もほとんどなく満足していただいている。出来る限り家庭の様な環境で、平穩に穏やかな生活をしていただける事を大事に頑張っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が設計・施工したバーベキューグリルがひとときの息抜きとなる状況は変わらずでコロナ禍の先行きは見えないものの、プロの調理人だった2名の職員を中心に、食事は抜群です。利用者の持病や年齢からくる重度化さらには看取りと、職員は休む間もない日々ですが、ネパール出身者の入職で、よくもわるくも新たな風が吹いています。入浴で耳の中を洗う習慣があるとのことで周囲を驚かせたり、何を作ってもカレー味になってしまうことなど障壁は様々ありますが、若いエネルギーと明るさが有益に働く場面も見られ、一方で先輩職員の度量や見識を試される事も否めず、現状利用者とともに前向きに見守る日々を送っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の基本理念を玄関の見える位置に掲示し共有出来るようにしている。またホームの指針を定めビジョンを明確にし実践している。 | 看護師、調理師と専門家がいることも財産ですが、「笑顔で暮らせる毎日」を体現できる人間性を職員一人ひとりが持っていることが何よりで、外国人職員も温かく迎え入れていきます。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 昨年同様コロナ禍により行事を中止にせざるを得なく交流は出来ていない。 | コロナが下火になったとき、元・町内会長が中心となって運営されるカラオケ大会が再開しています。皆大喜びで愉しめましたが、今後はまた不透明になっています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 特に大きな活動はしていないが、ホームに来る見学や相談は感染対策をした上で積極的に対応するようにしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍により開催は控えているが、活動報告やホームの様子、今後の予定などを提出し地域の方々にも回覧してもらっている。 | 運営推進会議はコロナ禍を受け、書面開催となっておりますが、「市役所、地域包括支援センターどちらかの出席があること」のルールに照らし、証として返信をもらっていて、意見交換が成されています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 生活保護の方がほとんどな為、権利擁護の方から生活支援課の方を通して利用代の相談が増えている。出来るだけ生活を支えたいため収入が支出を上回り貯蓄のない方は減免をさせていただいている。 | 国から届いた抗原キットは活用しています。おむつ申請は郵送、集団指導もオンラインですが、生活保護者で減免措置が必要な3名については、窓口に出向いています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束はしていませんが玄関も夜間以外、常時開放している。身体拘束廃止委員会の開催により理解を深め、無意識に起こりうる身体拘束に注意している。 | 身体拘束廃止委員会が事例検討という形で適切に実施されています。また話し合いは利用者の気持ちをおもんばかりつつ、本人の有用感にどのようにつなげたいか、利用者ファーストで進行していて、協議を通じて職員の成長も垣間見えるものです。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待にあたることはないと思うが、無意識に言葉で傷つけてしまう事もあり得る為、虐待防止委員会を開催し学習し共有している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 面会も制限され、口頭での様子報告だったが大きな問題はなかったが前年以上に経済面で大変になっていると感じる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分な説明等出来ていると思うが新規の利用者の場合、状況によっては施設側と家族側との意思疎通が難しい部分があると感じる。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | コロナ禍により面会を控えていただいている中で書面開催での運営推進会議の中で地域の方々意見をいただくようにしているが特に記載がなかった。家族がいる方が少なく伺う機会がなかった。 | 「家につれていきたい」との家族の希望がある利用者のことは何とか状況と要望の折り合いをつけられたらと思うものの、大半は家族と縁が薄く、本人に都度考えや思いを確認しています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月の会議、毎日朝の申し送りに施設長が参加することで健康面や現在ケアの面で困っている事等共有することが出来ていると思う。 | 働き方や制度については特段の進言はありません。利用者の健康面やケアの方法については、看護師である施設長を中心にQ&Aが日々紐解かれて職員は安心な環境にあります。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 現在の職員も通常業務になれ経験も増えてきた為、各担当を作り、業務を振り分けている。イベント等も古参職員が入らずに計画作成から開催まで任せるようにしてきている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員一人一人の力量は把握しているが、ケアの実際ではまだまだ足りない所があり指導の仕方など難しいと感じている。オンライン研修も取り入れはじめてはいるが、中々時間が取れずにいる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 交流はできなかった。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ホームでの暮らしが苦痛にならない様に不安や困っている事、それに伴う要望に関して丁寧に聞くようにしている。またこちらからも世間話しながら探るようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族が考えるケアの方針や思いなど聞くようにしている。同時に起こりうる危険なども伝えケアの仕方を決めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 最近ではリハビリの要望もある中、施設で出来ること、安全であるかどうかを含め道具のレンタルなど対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 介護介助が必要な方には出来ていると思う。「家族のように」を合言葉に職員も暮らしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コロナ禍により直接の面会や外出が制限されている中、通院など協力してもらえることはしていただき、電話などでも対応していただいている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 暮らしの中や会話で「好きなこと」など探し出しイベントや買い物で提供するようにしている。 | お金をある程度自由に使える人とそうでない人が混在しているため、職員は「全員で」と「個別で」について配慮しつつ、その人の欲求が満たされ、生活が快適になるよう、支援しています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 一部の方向士お互い助け合ったりしていたり、世話を焼いたりしてくれている。孤立している方は現在いなくそれぞれ仲の良い方がいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 現状ではそのようなケースは長年なく看取りまでしている為最後まで穏やかに過ごせることを第一にしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 食と金銭に関しての要望がほとんどで自由に出来るだけの金銭もなく食べたいとの要望も病気や健康面での問題も多い為自由にはできないが2月に1度程度ではあるが普段食べられないものを好きなだけ食べていい日を設けている。 | 一言でいえば「ワガママ」面があることは否めませんが、一方でダイレクトに「～が食べたい」「～が欲しい」と言ってくれるため、職員は実現に向けての工夫に邁進するのみで、ある意味助かっています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 過去の生活歴などわからないことも多いが話で聞いたりして大まかには把握している。問題がない限りホームでの暮らし方や過ごし方に特に干渉せず自由に暮らしてもらっている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 普段の過ごし方や認知機能、身体機能の低下は気を配っている。また心の状態にも気を付け表情がいつもと違う場合など、人がいないときに尋ねるようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 会議、朝の申し送りを主な情報交換の場にしてきた。また職員からのアイデアや情報を大事に作成している。 | 職員が1、2名の利用者の居室担当者となることで細やかな観察と記録につなげており、「安楽に此処で過ごす」ことをゴールとして、本人本位となるよう介護計画書が策定されています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 普段から記録に残すことは基本とし健康面や少しの変化など勤務帯ごとに申し送りし情報共有は出来ている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個人個人のニーズに対応する為にコロナ禍により制限が多いが、他がどうか今までどうだったかなどには捉われない様にはしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源の活用は出来ていないが、安全に配慮し出来ることは支援しながらやっている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 在宅医療を受けながら緊急時にも対応出来ている。 | 月2回訪問診療をおこなう協力医と、事業所の看護師(施設長)の連携が確かです。施設長の的確な判断を以て、重度となっても此処で暮らすことが叶っている人が少なくありません。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 施設長が看護師の為、気が付いた事など細かい所まで相談、共有出来ている。またインシュリン、バルーン交換、浣腸、深い傷の処置など定期的実施している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院してすぐに病院と予定から連絡、そのまま退院の予定まで大まかに決め、入院中も現状を聞き退院までスムーズに行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りがあったが、本人は失語症、認知症もあり家族もいなかった為、話し合いは出来なかったが出来るだけ苦しくなく、最後まで食べ続けられるよう施設長を中心に情報の共有をし日々ケアが変化する中対応できた。 | 消化できずペーストから経腸栄養剤へと替え、飲み込みも難しくなってアイスクリームを含むことで代替とし、点滴補充をおこない、ガーゼに水を含ませて…と状態変化に応じて命が尽きるときまで職員総意で看取りに取り組んでいます。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 看取りがあり急変も何度かあったが、職員がすぐに施設長に連絡し対応できた。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練は定期的実施しているが、居室空間が2階である為、はしご車がつけられる窓は1か所しかなく外階段も狭く急な為、厳しい。備蓄は1週間分ストックしている。 | 防火管理者もおり、年2回の法定訓練が実施されています。体調がよくないと階下で休む人もいますが、普段は皆2階で就寝のため、階下への避難訓練は重要であると利用者には繰り返し伝えています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 「自分が嫌だと思ふことはしない」を基本にし家族のように近い関係でも普段の何気ない声かけでも尊厳に充分配慮している。配慮が欠けている場合は注意、指導している。 | 育つ過程や成人して後の経済的苦労の影響もあるのか、「かまってほしい」「独占したい」といった依存傾向が強い人もいて、職員コールが頻回でも丁寧に接していることが記録から確認できます。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 皆様、食事の味付け、ご飯の硬さ、声掛けであったりと自然と思いや希望は出してくれている。不満を言われる事も怒られる事も。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入浴や食事の時間に関しては生活環境上こちらの都合に合わせていただく事があるがそれ以外に関しては自由に過ごしていただいている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 着の身着のままに入居する方も多く支援によりいただいた洋服の中で合う物を渡し、着てもらったりクリスマスには施設長の方からプレゼントをいただき、出来る限りの支援をさせていただいている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は大事にしており、朝食以外は経験者もいる為、炒めソースなども使わず毎食、イベントなどでも手作りをしている。宅食、テイクアウトは何年も利用していない。 | 管理者を含み、元シェフとの職員が2名おり、ソースの類いも手作りで、見た目も味も他の事業所の追随を許しません。またピザやBBQといったレクリエーション的な食事も盛んです。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 体重や疾患によって食べる量や栄養バランスには気を付けている。水分量にも気を配り排尿の量や、季節、入浴後など細かく対応している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 訪問歯科診療を使用している。口腔ケアについては充分ではないが歯磨きを出来る方はしてもらい困難な方や歯のない方には低刺激のマウスウォッシュを使用し食後にうがいをしていただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 昼夜問わず排泄のパターンや失敗を把握し失敗のないよう支援している。日中は車椅子でも定時にトイレ誘導し出来るだけ自分の力で立ってもらっている。 | おむつ2名、1名バルーン、他はリハパンという状況です。夜間はおむつ使用が6名に増え、安眠優先の体制をとっています。安眠のほか、夜間は「間に合わない」人が多いのも理由の一つです。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分の定期的な摂取、時期により増やし下剤の服用や浣腸の実施など一人一人に応じた対応をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴時間は決められてしまっているが、希望により順番を変えたり、日を変えている。 | 現在は併設事業所と共用ですが、来年の初冬には新しい専用浴槽が完成の予定です。拒否までではないもののお風呂が苦手な利用者が多く週2日の回数を増やしたいとの希望者はいません。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 車椅子生活の方でも体調の変化により積極的に昼寝や休息を取ってもらうようにして長時間の車椅子の使用は避けている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 看護師がいる為、管理できており職員にもわかるように服薬している薬の画像、用法、効能、副作用を個人記録に入れてある。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食器の片付けや出来る方と嫌がらない方に限ってしまっているが、洗濯たたみ、外のごみ捨てのネットなど進んでやってくれている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍により制限はあるものの、陽気のいい日には施設の外にて日向ぼっこをしたり、近場の散歩に出たりしている。 | 周辺散歩や外気浴は本人の要望に応じています。遠出については以前のように「年1回はサファリパークだあ」というわけにはいきませんが、静岡空港まで足を延し、車に乗った状態で飛行機の離発着を眺めた日もあります。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 経済的に厳しく自由に使えるお金はほとんどない方が多い。外にも行けない為必要なものや欲しいものが金額の範囲内であれば職員が代行している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 要望があるときに支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 掃除は分担して清潔に保っている。玄関、廊下の共用部分に写真を掲示し、職員が作成した季節の飾りを置いている。 | 皆と交わりたくない人は大半の時間を居室において、職員をアレコレ呼び出しています。日中は居室、食堂、デイルームにそれぞれ分かれて好みの場所を確保しており、デイルームで胡蝶蘭を見事に咲かせた人もいます。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 1人で過ごせる方はそれぞれにテーブルを用意している。最近では気の合った利用者様同士話している姿を時折目にする事が増えた。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室においては利用者が土地勘がある方は窓が多い部屋に入居してもらったり、家族の方に必要なものや家で使用していたものなどを持ってきてもらっている。 | 居室はプラスチックの衣装ケースのみという部屋もあり、殺風景です。中には大型のテレビをおいたり、お気に入りの音楽を聴くためのデッキをもっている人もいます。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 機能低下により自立できる生活が送れる方が減ったが個々に合わせた環境を作れるようにしている。 | | |